

遠山千代子（上野学園大短大）

【目的】本学家政科は家政学専門実習だけでなく、伝統的に美術実習（絵画、版画、書道、染色、陶芸、染織工芸、手芸）が多彩であることを大きな特色としている。手芸をより魅力的な科目とするために取り入れた合同作品制作について紹介し成果を発表する。

【方法】手芸（2年次選択科目）ではパッチワークや刺繍の基礎と応用を学びつつ、生活を豊かにする品々を心をこめて手作りする。基本的には個人作品が中心であるが、合同作品も制作することによって、①制作意欲・技術の向上を図り、②制作者全員が協力して、大きな作品を完成させる達成感を持たせるようにした。さらに③デザイン、素材、手法をさまざまに工夫し、オリジナル作品を創作することを重要視した。なお作品は毎年度1枚ずつ制作しており、計10枚以上を数える。

【結果】①大部分の学生にとっては初めての経験であり、新鮮感や完成への期待は制作意欲・技術の向上につながった。②制作者全員が各自の担当部分に名前を刺繍したことで、責任を自覚し、参加意識の高揚や達成感が得られた。（ヨコのつながり）③毎回大テーマのもとに小テーマを設定し、流れを引き継いでいったことも大きな効果を生んできた。学生は卒業後も母校訪問の際には「自分たちの学年の作品」として懐かしく語りあう姿を見せてくれる。（タテのつながり）以上の作品は毎年度末、卒業作品として展示された後、家政科棟ロビーに常設展示されたり、地方自治体の行事に貸出展示されたりしている。